



# 令和元・2年度 持続可能な 社会づくりに向けた 教育推進校

## 武蔵村山市立第一小学校

本校は、令和元・2年度東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校の指定を受け、研究を推進してまいりました。この2年間の本校の取り組みについて、プレゼンテーションにまとめましたので、ご覧いただけたらと思います。



## 推進校の目的

▶ 児童一人一人が

地域や地球規模等の諸課題を

自らの課題として

解決していくための

能力や態度の育成

持続可能な社会づくりに向け、児童一人一人が、自然環境や地域・地球規模の諸課題を、自らの課題として考え、解決していくための能力や態度の育成が推進校の目的です。

# SDGsのキーワード

2 飢餓を  
ゼロに



## 誰一人取り残さない

そして、持続可能な開発目標(SDGs)のキーワードである「誰一人取り残さない」ということが、学校においても最も大切であるととらえました。



## 研究主題

感じたことを大切にし、  
思いや願いを実現する  
児童の育成  
～誰一人取り残さない  
授業を目指して～

①そこで、研究主題を「感じたことを大切にし、思いや願いを実現する児童の育成～誰一人取り残さない授業を目指して～」としました。本校の仲間の誰一人取り残さないという強い思いが込められています。

# 主題の設定理由

4 質の高い教育を  
みんなに



## ①これからの社会と学習指導要領

グローバル化、情報化、人工知能の進化、  
少子高齢化、価値観の多様化

⇒よりよい社会を創り出す力、  
よりよい人生を自分で作り上げる  
力の育成

②主題設定の理由は次の3点です。

1点目に、現在の課題として、グローバル化、情報化、人工知能の進化、少子高齢化、価値観の多様化といった背景があり、これからは予測困難な時代を迎え、急激な社会の変化と向き合わなければならないといわれています。このような中で、よりよい社会を創り出す力、よりよい人生を自分でつくり上げる力を育成しようというのが、学習指導要領の第一の柱になっています。



## 主題設定の理由

### ②地域性

共同意識は高いが……

⇒自らの目標に向かって、  
主体的に生きる力の育成

2点目は、地域性です。

本校の児童は、保護者・地域から温かく見守られているため心優しく、素直な面があり、どこの地域にも負けない純朴さが見られます。地域に根付いた武蔵村山市の教育環境の下、共同意識は高いが、個になると課題が見られます。自らの目標に向かって、主体的に生きる力の育成が求められます。



## 主題設定の理由

### ③研究を行う前の児童の実態

- ・自ら考える場の設定が必要
- ・自信をもって相手に伝える能力の育成
- ・最後まで継続できる力の育成
- ・協働意識の育成

3点目は、児童の実態からです。

児童の課題を解決するために、

- ・自ら考える場の設定が必要である。
- ・自信をもって相手に伝える能力の育成が必要である。
- ・最後まで継続できる力の育成が必要である。

これらのことがあげられます。

他者とかかわり合いながら、よく考えて、最後まで粘り強くやりぬく態度を育成する必要があると考えています。毎日の授業を大切に、研究主題に向かって教育活動に取り組むことで将来、武蔵村山の地を離れ、急激な変化を伴う社会の荒波にもまれても自己の思い、願いを実現できる人にしたいと思います。



# 身に付けさせたい力

## ①立ち向かう力

## ②共創する力

## ③行動する力

主題のような児童を育成するために、主体的・対話的で深い学びを通して児童に身に付けさせたい力を次の3点にし、授業を行ってきました。

### ①立ち向かう力

目の前の課題を課題として捉え、課題解決に意欲的にかかわる力です。導入の工夫を行い、児童の「やってみたい」「知りたい」「どうして」という素直な思いや願いを引き出してきました。

### ②共創する力

他者とかかわりあいながら、よりよい考えや方法を創造する力です。まず、自分の考えを持たせてから、学級で話し合わせる授業をしてきました。

### ③行動する力

課題解決の過程で得たことを基に、自分の思いを表現する力です。文章・絵・図・劇・プレゼンテーション・討論などあらゆる方法を授業に取り入れました。





## 誰一人取り残さない視点

- ① 思いや考えを肯定的に受け止める。
- ② 全員が思いや考えを表現し共有する。
- ③ 全員の学習状況を見取る。
- ④ 適宜指導するとともに、価値付けをする。
- ⑤ 多様な思考を促し、評価するための  
授業構成に努める。

児童にこの力を身に付けさせるため、私たちは「誰一人取り残さない」という次の視点、5点を常に意識して授業に取り組みました。

- ①児童一人一人の思いや考えを大切に、肯定的に受け止める。
- ②授業の中で児童全員の思いや考えを表現させ、みんなで共有する。
- ③児童全員が課題に取り組んでいるか、いないか、学習状況を見取る。
- ④学習状況を踏まえ評価し、指導するとともに、価値付けをする。
- ⑤児童の多様な思考を見取るための授業構成に努める。  
です。



つまり、

**児童全員が、話を聞き、  
授業に意欲的に取り組め  
なければ、目標は達成でき  
ない。**

つまり、

児童全員が話を聞き、そして主体的に授業に取り組めなければ、目標は達成でき  
ないと考えています。



## 研究仮説

### 誰一人取り残さない視点

- ⇒共に生きることへの喜び
- ⇒社会参画する意欲や行動
- ⇒持続可能な社会の担い手

そこでこのような研究仮説をたてました。

誰一人取り残さない視点で授業に取り組むことで、児童に共に生きることへの喜びを感じる心が芽生えるはずである。この心は、やがて大人になったとき、多様性と包括性のある社会に参画しようとする意欲や行動へと発展し、持続可能な社会の担い手を育てることができるだろう。

です。

SDGs

11 住み続けられる  
まちづくりを



# 誰一人取り残さない 社会

配布しましたリーフレットの研究構想図をご覧ください。左上にあるSDGs「誰一人取り残さない社会」と

# 学校経営方針

12 つくる責任  
つかう責任



# 誰一人取り残さない 学校

そして右上にある学校経営方針「誰一人取り残さない学校」からすべてがスタートし、そしてこの言葉がどんなときでも私たちが教師として忘れてはいけない態度だと考えています。この言葉を教員一人一人が大切にしながら、授業に取り組んできました。



# 各学年の取組 研究授業 令和元年度

配布しましたリーフレットの各学年の授業の様子を御覧ください。

## 第2学年 生活科 「ハートをつなごう」

### SDGs

### 3「すべての人に健康と福祉を」

- ①自分の意見を表現しようとする姿勢を大切にした。
- ②ゲストティーチャーの話聞いたことで、考えが深まった。

第2学年です。

生活科「ハートをつなごう」の授業です。

この授業はSDGs

3「すべての人に健康と福祉を」につながる学習です。

学区内の高齢者グループホームの方々が、運動会を見に来たいと思うような招待の仕方を考え、話し合う授業でした。

自分の意見を表現しようとする姿勢を大切にし、主体的・対話的に取り組む授業を目指しました。ゲストティーチャーとして専門家を招き、話を聞いたことで考えが深まりました。

児童から「みんなの意見が聞けて楽しかった。」「運動会の練習をもっと頑張りたい。」「高齢者グループホームに行くのが楽しみになった」という声が聞かれました。



# 第2学年 生活科





## 第3学年 総合的な学習の時間 「うこっけいとなかよし」

### SDGs

## 15「陸の豊かさを守ろう」

- ① うこっけいについて調べたことを、グループごとに発表した。
- ② うこっけいと触れ合う体験活動を取り入れた。

第3学年です。

総合的な学習の時間「うこっけいとなかよし」の授業です。

この授業はSDGs

15「陸の豊かさを守ろう」につながる学習です。

うこっけいについて興味をもって調べてきたことを、グループごとに紙芝居やクイズなどの方法を使って第2学年に発表しました。

烏骨鶏と触れあったり、間近で観察したりできる体験活動を取り入れました。

児童から「烏骨鶏について調べたことをしっかりと伝えられて、嬉しかった。」「みんなで協力しなければ烏骨鶏の世話をすることができない。命を粗末にしないために引き継ぎを大切にしていかなければならない。」という声が聞かれました。

## 第3学年 総合的な学習の時間

第3学年 総合的な学習の時間  
「うこっけいとなかよし」



# 特別支援学級 生活単元学習 「一小的動物を知ってもらおう」

## SDGs

### 15「陸の豊かさを守ろう」

- ①校庭で授業を行い、やぎと直接触れ合う体験活動を取り入れた。
- ②体験活動を通して、やぎの特長を発見し、伝えることができた。

特別支援学級でも「誰一人取り残さない」という視点を強く意識しながら、授業を行いました。

生活単元学習「一小的動物を知ってもらおう」の授業です。

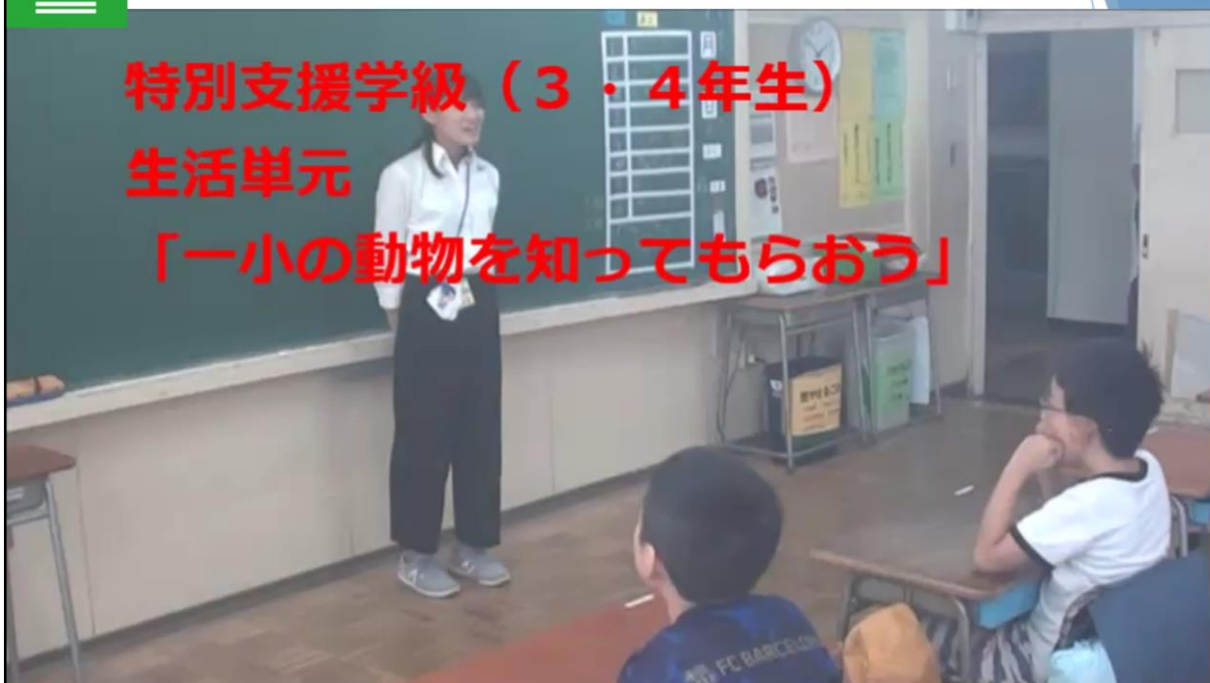
この授業は、SDGs  
15「陸の豊かさを守ろう」につながる学習です。

一小的で飼育しているヤギのココアとラッキーに餌をあげたり、小屋を掃除したりして触れ合ったことで、今まで知らなかったことを発見することができました。発見したことを発表し、友達に伝えました。校庭で授業を行い、ヤギと直接触れ合う体験活動を取り入れたことで、児童が目をキラキラさせて活動し、たくさんの思いを発表することができました。

児童から「ココアとラッキーについてのポスターを作り、特長を友達に伝えたいです。」「ココアとラッキーをもっと大切にしたいと思いました。」という声が聞かれました。

## 特別支援学級 生活単元学習

特別支援学級（3・4年生）  
生活単元  
「一小的動物を知ってもらおう」



## 第5学年 国語科

# 「広がる、つながる、わたしたちの SDGs 読書」

## 16「平和と公正をすべての人に」

- ①読み聞かせを聞いて、自分の考えを明確にし、話し合いをした。
- ②道徳科の「生命尊重」の観点と関連して、教科等を横断した授業となった。

第五学年です。

国語科「広がる、つながる、わたしたちの読書」の学習です。

SDGs

16「平和と公正をすべての人に」につながる学習です。

「どうぶつさいばん ライオンのしごと」の読み聞かせを聞いて、「有罪」なのか「無罪」なのか、自分の考えを明確にし、その考えをもとに話し合いをしました。

話し合いでは、出てきた意見に対して質問したり、反論したりさせることで、考えを深めさせていきました。クラスみんなの意見を聞いたことで、自分の考えをより明確なものにすることができました。特別の教科道徳の「生命尊重」の観点からも考える、教科等を横断した授業となりました。

児童から「みんなで話し合う中で、自分の考えが変わっていくのが分かった。」「自分の意見をはっきり伝えることができて楽しかった。」という声が聞かれました。



## 第5学年 国語科

第5学年 国語科

「広がる、つながる、わたしたちの読書」





## 第6学年 総合的な学習の時間

### 「ぼくの夢 わたしの夢」

## SDGs

### 8 「働きがいも経済成長も」

- ① 体験活動やゲストティーチャーの話を通して、「働くために大切なこと」について考えることができた。
- ② 仕事について、興味をもつことができた。

第六学年です。

総合的な学習の時間「ぼくの夢 わたしの夢」の授業です。

この授業は、SDGs

8「働きがいも経済成長も」につながる学習です

体験活動やゲストティーチャーの話を通して、「働くために大切なこと」についての自分の気持ちを考え、発表しました。自分がなりたい職業についても考え、そのためにどのようなことを調べたいのかを考えました。

自分を見つめ直したり、友達によさを教えてもらったりしたことで、自分が今まで意識していなかった仕事についても考えることができました。

児童から「働くために大切なのは、自分の好きなことややりがい、楽しさを見つけられることだということ考えることができた。」「職業というものをより身近に感じ、「この仕事のこれを調べたい」という気持ちになった。」という声が聞かれました。

## 第6学年 総合的な学習の時間







# 各学年の取組 研究授業 令和2年度

令和2年度の研究の取り組みを御覧ください。

## 第4学年 社会科 「水害からくらしを守る」

### SDGs

#### 11「住み続けられるまちづくりを」

- ①一人一枚の短冊を用意したことで、全員が積極的に参加する授業になった。
- ②授業終盤の子供たちの情報共有の時間が「誰一人取り残さない」になっていた。

第4学年です。

社会科「水害からくらしを守る」の授業です。

この授業はSDGs

11「住み続けられるまちづくりを」につながる学習です。

水害の映像を見て、くらしを守るための方法にはどんなものがあるのかを考え、グループごとに話し合い全体で共有するという授業でした。

水害が身近な問題であることを認識し、自分事として捉えられるようにすることで、主体的・対話的に取り組む授業を目指しました。

普段から自分の考えを短冊で書く活動を重ね、考えを言語化できるようにしました。児童からは、くらしを守るための対策で、「非常袋や災害対策の用品などがあつたらちょっと被害が減るかな。」という意見が多くありました。

# 第4学年 社会科



## 第2学年 国語科

### 「あったらいいな、こんなもの」

## SDGs

### 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

- ① 2年生に身近な課題にしたことで、全員が積極的に参加する授業になった。
- ② いろいろなペアで発表し合うことで、話し合いを深めることができた。

第2学年です。

国語科「あったらいいな、こんなもの」の授業です。

この授業はSDGs

17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる学習です。

前時までに考えた「あったらいいな」と思うものを、パワーアップさせるために友達の話を聞いて、受け止めてから反応することを繰り返していく活動を通して、他者と共創していく力を身に付けさせていくという授業でした。

質問の仕方を全体で確認することで、質問をすることが苦手な児童も安心して質問をすることができるようにしました。

また、話し合いが終わった後に結果を全体で共有することで、他のペアの話し合いの仕方を知ることができました。この共有の後に、相手を変えた違うペアで行うことで、より話し合いを深めることができました。

児童の感想からは、「友達は質問を聞き取ってくれて、聞きたいことをちゃんと答えてくれて、工夫ができた。」という意見が多く出ました。



## 第2学年 国語科





# これからの課題（元年度）



- ① 本校に合った  
主体的・対話的で深い学びの  
在り方をより具体的に  
する。
- ② 思いや願いを全員が  
表現できるように  
する。
- ③ SDGsへの意識を  
高める。

一年目の研究では、次年度へ向けて次のような課題が出ました。

① 本校に合った主体的・対話的で深い学びの在り方をより具体的に探る必要がある。

② 思いや願いをもたせ、それを全員が表現できるようにする必要がある。

③ SDGsとの関連を児童に意識させる必要がある。

この課題を、教員全員が意識し、児童全員のために次年度に活かそうと考えました。

## これからの課題（2年度）



- ①各教科間での**系統性**を確認し、日常生活の中でできる手だてについて考える。
- ②**主題に迫るための手だて**を考える。
- ③**日々の授業から**、児童が自ら考えてSDGsに取り組んでいくことを、実践していく。

令和2年度、昨年度の取り組みから出た課題を基に、今年度も取り組んできました。その中で昨年度とは違った次のような課題が出ました。

- ①各教科間での系統性を確認し、日常生活の中でできる手立てについて考える必要がある。
- ②授業の中で、主題に迫るための手立てを考える必要がある。
- ③日々の授業から、児童が自ら考えてSDGsに取り組んでいくことを、実践していくことが必要である。

この二年間の課題を、教員全員が意識し、児童全員のために次年度に活かして行こうと考えました。

# 成果（元年度）

15 陸の豊かさも  
守ろう



## ①「誰一人取り残さない」姿勢

⇒児童が学習課題に立ち向かう姿が見られた。

## ②取り組みたくなる課題の工夫

⇒児童の主体的・継続的な態度が育成できた。

## ③直接的な体験

⇒児童の学習意欲を引き出すことができた。

一方、大きな成果もありました。

①「誰一人取り残さない」姿勢を徹底的に求めてきたことで、児童は学習課題に立ち向かうようになった。

②取り組みたくなる課題の工夫をしたことで、児童の主体的で継続的な態度がみられるようになった。

③直接的な体験が児童の学習意欲を引き出した。



# 成果（２年度）

15 陸の豊かさも  
守ろう



- ①SDGsを取り入れた授業について、教職員全体で共通理解することができた。
- ②SDGsとは何かを、児童が認識することができた。
- ③日常の授業の中で、どんなことがSDGsと関連しているのかを全員で認識することができた。

①SDGsを取り入れた授業について、教職員全体で共通理解することができた。

②SDGsとは何かを、児童が認識することができた。

③日常の授業の中で、どんなことがSDGsと関連しているのかを全員で認識することができた。

二年間の成果からも分かるように、SDGsとは何かを理解した上で、自分たちにはどんなことができるのかを考えようとする教職員、児童が増えました。



## 2年間の研究で得たもの

- ① 日常の授業は、SDGsと関連していることが分かった。
- ② SDGsを達成するための能力や資質を育成するためには、実感を伴った主体的・対話的で深い学びを具現化することが必要である。
- ③ 実感を伴った主体的・対話的で深い学びを具現化するためには、17の「パートナーシップで目標を達成しよう」が重要である。

この2年間の研究で得たものは、①日常の授業は、SDGsと関連していることがわかった。

②SDGsを達成するための能力や資質を育成するためには、実感を伴った主体的・対話的で深い学びを具現化することが必要である。

③実感を伴った主体的・対話的で深い学びを具現化するためには、17の「パートナーシップで目標を達成しよう」が重要である。

これらを基に、次年度の研究につなげていきます。





# 御清聴ありがとうございました



SDGsのキーワードである「誰一人取り残さない」を本気で考えながら、2年間授業に取り組んできました。目の前にいる誰一人同じでない、一人一人のことを知り、その全員に正面から向き合っていくことが、本校では大切だと考えています。それが「誰一人取り残さない授業」であると思います。新型コロナウイルス感染症対策により、今年度は思ったように研究授業ができなかったり、学習活動に制限があったりして、児童も教職員も試行錯誤を重ねました。しかし、出来る活動を行ったり、SDGsのターゲットを精選したりすることで、昨年度は見えなかったSDGsへの新たな取り組みも見え始めました。この研究が、今後も持続し、より良い社会を築いていける児童を育てていくための礎にしていきたいと、教職員一同考えております。どうもありがとうございました。